

松下 功

MEMORIAL CONCERT 2021

9月16日[木] 会場 | ムジカーザ

渋谷区西原3-33-1 TEL.03-5454-0054
「代々木上原駅」東口下車徒歩2分

第1部

16:00開演 15:30開場

●3歳以上ご入場可

松下 功 作詞 作曲

《3つのヴァリアンテ》1994

歌とピアノのための

1. 夢の時へ
ファゴットのオブリガートとともに
2. 秋の葉音に
3. 沫雪の舞

松下 功 作曲

《ファンタジー》1971

ファゴットとピアノのための

ジャン・ド・ブリュノフ 作

フランシス・プーランク 作曲

《象のババールのお話》1940

語りとピアノのための



第2部

19:00開演 18:30開場

●未就学児 ご入場不可

全曲 松下 功 作品

《オペティカル・スコープII》1991

ヴァイオリン、ホルン、ピアノのための

《葦の舞》2001

オーボエ・ソロのための

《ティサラーナ》2008

—天空の祈り—

オーボエ、ファゴット、ピアノのための

《マントラ》2001

ヴァイオリン・ソロのための

《五重奏曲》1992

—映画『屋根裏の散歩者』のための音楽—
オーボエ、ホルン、ヴァイオリン、チェロ、ピアノのための



TALK
GUEST
トーク・ゲスト
寺田 農
油谷岩夫

渡邊智美

メゾソプラノ/語り
第1部

長原幸太

ヴァイオリン
第2部

黒川正三

チェロ
第2部

宮村和宏

オーボエ
第2部

依田晃宣

ファゴット
第1部・第2部

笠松長久

ホルン
第2部

土屋律子

ピアノ
第1部・第2部

第1部 一般 2,000円 学生 1,500円 小学生以下 500円 第2部 一般 4,000円 学生 3,500円

通し券 一般 5,000円 学生 4,000円 *通し券はミリオンコンサート協会のみの取扱い

全自由席

チケット販売 チケットぴあ 0570-02-9999 Pコード200-596 (ミリオンチケット) 03-3501-5638

主催 松下 功 MEMORIAL CONCERT 実行委員会 協力 (株)東京ハッスルコピー

コンサート・マネジメント ミリオンコンサート協会 03-3501-5638



コンサートに寄せて

昨年9月16日、板橋・安養院の平井ご住職のご好意で、お寺の中の瑠璃光堂という素敵な空間を貸して頂き『松下功MEMORIAL CONCERT 2020』を開催しました。コロナ禍ではありましたが、学生時代からの盟友・澤和樹氏やベルリン時代の仲間・四戸世紀氏をはじめ、松下と親しかった総勢13名の演奏家が集まり、近年はあまり演奏される事も少なくなっていたソロや小編成の室内楽作品を計15作品聴いて頂き、ご来場くださった皆さまにも、とても喜んでいただけました。今年の11月に松下功は70才になる筈でした。「何か記念になるコンサートを…」と言ってくださいる方もありますが、この状況で大きな企画を立てることは難しく、また、小編成の作品で是非皆さまに聴いて頂きたいものもまだまだたくさんありますので、今年も室内楽コンサートをと考え、Ob.とVn.のソロを中心にした企画を立ててみました。素晴らしい演奏者の皆さま方も快諾して頂けて、この様なプログラムが実現でき、本当にありがたく思います。

《葦の舞》(2001)は本日、演奏して下さる宮村さんの委嘱で生まれた作品。《マントラ》も2001年に澤さんに初演して頂いたのですが、長原さんも既に何度も素晴らしい演奏を聴かせてくださっています。笠松さんは《オペティカル・スコープII》(1991)、《五重奏曲》(1992)の両作品初演を私と一緒に行ってくださった方。黒川さんは、昨年の《四重奏曲》(1988)で骨太で素敵な演奏をして下さり、是非今年もご一緒にとお願いしました。《ティサラーナ》(2008)はこのプログラムの中では一番新しい作品で、今回3人共、初めて演奏するのですがとても楽しみです。

第1部で依田さんと一緒に演奏する《ファンタジー》(1971)は浪人時代に書いた作品で、譜面が汚くて解説するのが非常に困難なのですが、若い作曲家のエネルギー(本人曰く「現代音楽にかぶれていた頃!」)を感じる作品で、今回、依田さんには譜面の整理で大変助けて頂いています。《3つのヴァリエーション》(1994)の詩は松下本人が書いたもので、3つの詩を元に1994年に全く別々の3つの器楽作品を書いたのですが、ここで一つの作品にまとまりました。そして、プーランクの作品《象のババールのお話》、実はこの作品は松下功の朗読で、どこかの小学校で演奏した事があります。子どもたちが大好きだった功。とても楽しそうに語っていました。そして、功の人生にとって大きな存在の一人だった実相寺昭雄監督の企画でも何度か演奏させて頂いた、私にとっては思い出深い作品です。渡邊智美さんとは2019年にある小学校のイベントでお会いしてから親しくさせて頂いていますが、日本語の発音がとても美しい方で、今回は歌と語り、両方に挑戦して下さいます。

昨年取り上げた《四重奏曲》、今回の《五重奏曲》共に、実相寺監督の「音楽作品として独立して演奏できる作品を…」との依頼で生まれました。今回は監督と長年、親しくお仕事をしてくられた油谷さん、寺田さんにも思い出等を少し語っていただけることになりました。実相寺監督、監督の奥様・原知佐子さんも、功と共に遠くからこのコンサートを見守っていてくれていることと信じて、コロナ禍ではありますが開催できることを祈り準備をしています。快くご協力くださっている全ての皆さまに感謝しつつ…

2021年6月 土屋(松下)律子

松下 功 ISAO MATSUSHITA 1951.11.23 - 2018.9.16

東京藝術大学、及び同大学院にて作曲を南弘明、黛敏郎の各氏に師事。
1977年、日本音楽コンクール作曲部門(管弦楽曲)入賞《Diffusion》。1979年、DAAD(ドイツ政府学術交流会)給費生としてベルリン芸術大学に留学し、尹伊桑氏の基で研鑽を積み、1986年まで当時の西ベルリンに滞在し創作活動を行い、世界各地の音楽祭で作品が演奏される。またこの頃、音楽家、建築家、画家、書家等の友人たちと『東風(Kochi)アンサンブル 音響—絵画 ベルリン』を結成(主宰)し、様々な実験的な公演を行う。1985年、メンヒェングラートバッハ市国際作曲コンクール第1位《時の糸I》(弦楽四重奏曲)。1986年、入野賞受賞(委嘱賞)、翌1987年に《時の糸II》(ピアノ協奏曲)初演。帰国後は尚美学園、東京藝大で教鞭をとる。またアジア音楽祭等の企画も多数行う。1997年、オペラ《信濃の国・善光寺物語》初演(長野冬季オリンピック公式文化プログラム)。2000年、ベルリンフィルの野外コンサートで《飛天遊》(和太鼓協奏曲)が演奏され、全世界に衛星生中継される。2003年より東京藝術大

学演奏芸術センター助教授(後に教授)として、2014年からは、副学長として多数の企画公演を実現する。また、日本作曲家協議会、アジア作曲家連盟等の会長もつとめ、アジア各国との交流を盛んに行った。2009~10年、オペラ《遣唐使—阿倍仲麻呂》を、奈良薬師寺・玄奘三蔵院(特設舞台)で初演。2012年には、中国での日中共同制作としてのオペラの作曲を進めていたが社会情勢のために中止を余儀なくされ、2019年3月、多くの方々のご尽力により、このオペラ《長安悲恋》が遺作初演された。2016年、仏教伝導文化賞・沼田奨励賞を受賞。

ベルリン時代から常に「洋の東西・過去と現代」という4つの方向性の融合を試み、様々な分野の芸術家や世界各地の伝統文化・現代の作品等を紹介し、自己の作品にも取り入れていた。また、小・中学生とのミュージカル作曲・公演等も楽しんで行っていた。アンサンブル東風主宰。カメラータナガノ、文京区民オーケストラ等で長年、指揮・指導。



渡邊智美

メゾソプラノ

東京藝術大学大学院修了。ドイツ、日本歌曲を得意とし、数々のコンサートやオペラに出演。日本声楽家協会会員。啓声会会員。

長原幸太

ヴァイオリン

東京藝術大学、ジュリアード音楽院に学ぶ。大阪フィルハーモニー交響楽団首席コンサートマスターを経て読売日本交響楽団コンサートマスター。

黒川正三

チェロ

東京藝術大学大学院修了。東京フィルハーモニーに入団後ウィーンへ留学、帰国後同楽団に復帰、1991年より首席奏者を務めた。

宮村和宏

オーボエ

東京藝術大学卒業。東響、マリインスキー劇場沿海舞台響など内外のオーケストラ等と共演。現在東京佼成ウィンドオーケストラ副コンサートマスター。

依田晃宣

ファゴット

東京藝術大学卒業。藝大フィルハーモニア管弦楽団ファゴット奏者。横浜シンフォニエッタ、アンサンブル東風メンバー。

笠松長久

ホルン

東京藝術大学卒業。東京都交響楽団首席奏者を定年まで務める。2020年10月から新日本フィルハーモニー交響楽団契約首席奏者。

土屋律子

ピアノ

桐朋学園大学卒業。バロックから現代まで幅広い分野で活動。ピアノ協奏曲『時の糸II』他、松下功作品の初演、再演を多数行った。ミュージック会、Rhyme勉強会を主宰。